

平成28年4月 市内全学校でスタート 「コミュニティ・スクール」とは



1 コミュニティ・スクールの定義

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に示された「学校運営協議会」を設置している学校。一般に、地域とともにある学校・地域のさまざまな活動の拠点となる学校・地域のみなさんに学校教育を支援・応援いただける学校とされています。

2 コミュニティ・スクールの設置

- ①教育委員会が「学校運営協議会」の委員を任命する。(平成28年4月) ※各学校15人以内で組織します。
- ②教育委員会がコミュニティ・スクールとなる学校を指定します。
- ※市内全小中一貫校を指定予定です。

3 「学校運営協議会」の機能

- ①校長が作成する教育課程等の学校運営の基本方針を承認する。
- ②学校運営について教育委員会・学校に意見を述べる事ができる。
- ③教職員の任用について教育委員会に意見を述べる事ができる。

4 「学校運営協議会」の意義と成果

- ①意義：「学校運営協議会」は、保護者や地域住民の側に、自らが学校の運営に積極的に参画することによって、自分たちの力で学校をより良いものにしていくこととする意識の高まりを的確に受け止め、学校と保護者や地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる仕組み。
- ②成果(既に、コミュニティ・スクールの実践している学校の報告から)

5 さまざまな地域と連携した行事の実施

- 学校と地域が、これまで以上に情報を共有するようになった。
- 地域と連携した取り組みが組織的に行えるようになった。
- 保護者や地域による学校支援活動が協力的、且つ活発になった。
- 特色ある学校づくりが進んだ。
- 子供の安全・安心な環境が確保された。
- 学校に対する保護者や地域の理解が深まった。



地域の中での農業体験「田植え活動」



地域清掃・美化活動「地域の一員として環境整備」



地域行事への参加「西多久ふれあいまつり」



地域のみなさんの直接指導「しめ縄づくり体験活動」

問い合わせ

教育委員会 学校教育課

☎75-12227

温故創新

市長コラム Message for citizen

機関車トーマスと多久駅のおはなし

市長 横尾 俊彦

機関車という子どもたちの連想は機関車トーマスと仲間たちでしょう。このシリーズは病気になった子を励まそうと書かれたことから始まった、素朴に心に響く、優しい心の物語です。

僕も子どもが幼い頃、絵入りの機関車トーマスシリーズ本を何度も読み聞かせしました。というより、させてもらったが正確でも楽しかったなあ。テレビ人形劇放送も一緒に観ました。

そしてプラレールとの出会い。よくできています。トーマス、パーシー、ゴードンなどの機関車、アーニー、クララベルの客車。様々な出来事に遭遇する機関車たちの物語が展開されます。

つぎはNゲージシリーズへ息子は熱中。「キハ」など専門用語を暗記しては質問攻めもししばしば。ご存知のように、Nゲージはジオラマ風景を走る列車の世界を自作できる楽しいものです。

そこで、「ならば本物トーマスを多久にも走らせたい」と考えたのが10年程前。そして著作権を所有する会社へ向かいました。予想通り厳しい規定がまわっていました。さらにわかったのは、すでに唐津線は本物機関車は走れない構造ということでした。レールが列車重量に合わせて交換されていたのです。「うーんダメかなあ」。でも諦めたくないし御縁を繋ぎたい。そんな思いで某社に時々お訪ねし心のレールは繋いでいます。いつかを夢みながら。

JR九州との会議でもそんな夢の思いも申し上げました。それがきっかけかどうかは定かでないですが、今年のバレンタインデー2月14日に多久駅隣接「あいぱれっと」にプラレールや子供を乗せて走るミニ機関車もやってきます。出かけてみませんか。トーマス達の元気を感じ交流できたらいいなと素直に思います。